

Analysis of Japanese Articles about Suicides Involving Charcoal Burning or Hydrogen Sulfide Gas

鍋島, 賢大

<https://doi.org/10.15017/1931778>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : CC-BY 4.0

(別紙様式2)

氏名	鍋島 賢大
論文名	Analysis of Japanese Articles about Suicides Involving Charcoal Burning or Hydrogen Sulfide Gas
論文調査委員	主査 九州大学 教授 池田 典昭 副査 九州大学 教授 神庭 重信 副査 九州大学 教授 須藤 信行

論文審査の結果の要旨

メディアによる特定の自殺報道がその後に模倣自殺を引き起こすことはよく知られている。わが国では、過去20年間に2種類の手段による自殺の流行とメディアによる過熱報道が起こった。しかしながら、自殺報道ガイドラインの遵守という視点からのメディアの自殺報道の質の評価に関する研究は今日まで行われていない。そこで、本研究では、2003年2月11日から2010年3月13日までの我が国の練炭及び硫化水素を用いた自殺に関する新聞記事(n=4007)を分析した。対象記事は自殺報道ガイドラインの遵守度合いで評価した。ガイドラインからの逸脱の程度を数値化した違反度数(violation score)点数の平均は、記事全体で3.06(±0.7)、練炭自殺報道記事で3.2(±0.8)、硫化水素自殺報道記事で2.9(±0.7)であった(p<0.001)。自殺報道ガイドラインで推奨される項目について、自殺手段を記載しないこと、自殺後の状態を記載することの2項目を除き、遵守度は改善していた。メディアの自殺報道による模倣自殺を防ぐためには、特に、自殺手段を記載しないこと、自殺後の状態を記載することが重要であると考えられた。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず研究目的、方法、結果などについて説明を求め、次いで各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、おおむね満足すべき回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。